



# 小田高 11 期通信

2013 年 2 月 22 日発行

第 10 号

*In the center of your heart and my heart, There is a wireless station; So long as it receives messages of beauty, Hope, cheer, courage and power From men and from the Infinite, So long are you young.*

## 紅顔いづくへか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし

編集者代表：  
今道周雄

小田高 11 期通信を終刊するにあたり、皆様に近況と写真をお寄せいただくようお願いしました。修証義の一節にあるがごとく、もはや紅顔の時代は疾く過ぎ去り、頭には霜を頂き腰には弓を張る今日この頃ですが、あえてアルバム形式でまとめ昔時を忍ぼうと思いました。

掲載の順序は原稿を頂いた順にしています。4・6 組の方で新たに寄稿されなかった方については昨年 11 月に行った合同クラス会の写真とコメントを掲載しているので、ご了承ください。

すでにご案内した通り、電子メールで配布する「通信」は無くなりますが、その代わりとして「小田高 11 期ホームページ」(<http://odako11.net/index.html>) を立ち上げましたので是非ご寄稿くださるようお願いいたします。

編集者

### 3 組 山本悟正 (のりまさ)

[gosei999@gmail.com](mailto:gosei999@gmail.com)



### 目次

- ・ 山本悟正
- ・ 掬川正人
- ・ 杉山 剛
- ・ 林 明德
- ・ 江口恵一郎
- ・ 榮 憲道
- ・ 石塚敬一
- ・ 瀬戸章嗣
- ・ 川崎慶右
- ・ 岩田秀明
- ・ 下赤隆信
- ・ 斎藤良夫
- ・ 江木紀彦
- ・ 月村 博
- ・ 辻 秀志
- ・ 米山 勉
- ・ 大倉富美男
- ・ 植田研二
- ・ 釘持忠勝
- ・ 山崎 泰
- ・ 太田 充
- ・ 相原俊雄
- ・ 入野卓彦
- ・ 西山岳男
- ・ 渋谷和夫
- ・ 吉田明夫
- ・ 山本哲照
- ・ 今道周雄

### 3組 山本悟正 (のりまさ)

私は吹奏楽部でトランペットを担当していましたので1組の鈴木英作さん6組の長谷川勝さんとは音楽親友です。熱海から一緒に電車通学していた<水泳部・土屋武信さん、写真部・大野英市さん>は今は亡き友で寂しいです。

小田高卒業後、苦しくも楽しい青春時代を経て写真の世界に入り、その後情報システム会社に勤務しながら写真を続け、本来は報道写真ですが、今は演劇・コンサートなど舞台写真や俳優さんなど人物写真を撮っています。3組・池島豊さんとは中学・小田高3年間同じクラスの熱海組ですが、今も池島さんの「稲門作品展」に友情出展するなど交流が続いています。

今年、同じ辰年の初孫が生まれましたので、も一少し元気でいたいと健康に留意し減量作戦を展開中です。

遺影写真は元気な時に創って残して置きましょう！！

### 4組 掬川正人

tomo-masak@blue.ocn.ne.jp



皆さん如何お過ごしですか

私は、一年前にめまいに襲われ数日苦しみました。これまで5～7年おきに2回これで3回目でした。天井はクルクル回るし両手で動かないものをしっかり掴んでも自分の体が何処かへ行ってしまう感じでした。

何があるかわからないと常々思っていました、これを経験してからは身の周りの整理を初めております。先ずは、我が一生を見つめようと自分史を書き始めました。地図に表示される建造物建設の一員として参加したものが多数あり、パソコンの助けを借りてやっております。楽しいこと、苦い経験等が脳裏に浮かび刺激になっています。

### 5組 杉山 剛

oto-corp@db3.so-net.ne.jp



昨年は小田高卒業後初めてホームカミングデイに参加させていただいた。一方地元の中学校の同窓会も60年ぶりで初参加した。小学校以来それこそ60年ぶりだったので、マドンナに会えるというときめきもあった。古いカレンダーを壁から取り外し1枚1枚括ってみた。何の変哲もない1年間であったことに気づいた。

こうして72年の月日が過ぎて行ったのだろうか？

もう残りが少なくなってきたことに思いを馳せると人間の欲望の儂さにも寂しさを思う。

曾野綾子さん著「老いの才覚」に人が生きてきた証は「どれだけ沢山の人と出会ったか？」だという。

金も女も地位や名誉も空しい。そうだ！今からでも「若い人との出会い」を大切にしよう。そして次の世代を応援しよう！！

## 6組 林 明徳

akinorihayashi2005@yahoo.co.jp



幕 山

昨日何を食べたのかも覚えていない程物忘れもひどくなっていますが、特別な持病もなく日々元気に過ごしています。

地元湯河原で観光ボランティアに参加し4年がたちました。平成24年9月には箱根ジオパーク（箱根、小田原、湯河原、真鶴の1市3町）の認定を受け、観光の新しい切り口としての活用が期待されていますが、このガイドに必要な知識を身につける為、箱根火山を始めとして地球のことを足かけ2年程詰め込まれました。

今にして知る生命の星・地球の不思議に興奮気味ですが、どれだけガイドを通じてお客さんにこの感動を伝えられるかが課題です。

写真は箱根ジオパーク認定現地審査（平成24年8月）で審査官に湯河原幕山ジオサイトで私が説明しているところです。

## 4組 江口恵一郎

keguchi@kuc.biglobe.ne.jp



箱根口にて

皆様、お変わりもなくお過ごしのことと存じます。一別以来ご無沙汰続きご容赦ください。現在、栃木県シルバー大学OBウォーキングクラブと男声合唱で活動しています。

昨年9月中頃に家内が細菌性風邪で16日間寝込み、思うような対応できず。試行錯誤で何とかのり越え快方に向かい安堵しました。この事を教訓にお互い健康に気をつける事と寝込んだ時は対応できるよう心がけています。

10月下旬から12月中に、赤城山・高尾山のウォークと男声合唱の県芸術祭・市民合唱祭等で演奏又、小学校訪問演奏と第九演奏会等続き忙しい日々を過ごしました。

今年も健康に気をつけて、ウォーキングと男声合唱の活

動を続けていきたいと思っています。

## 6組 榮 憲道

sarara@hm8.aitai.ne.jp

### 「新たなる時にむけて」

私の住んでいる長久手から、名古屋の市街地に抜ける爽やかなドライブルートがある。名古屋市民の憩いの場所である東山動植物園の裏山を抜ける道であるが、その道を彩った紅葉も、12月に入ると木枯しに落葉が舞い散る初冬のうら寂しい風景に変わった。



12月3日、かねてからの診断結果に従い、私の主治医ともいえる今池の胃腸科医院で大腸のポリープの摘出手術を受け、放っておいたら悪性腫瘍となりそうなポリープを内視鏡で除去した。胃ガンと診断され胃の半分を除去されてからちょうど十年経っている。最近の飛躍的な技術の進歩もあって、それほど心配はしてはいなかったが、やはり“万一”の不安は拭き切れない。その後1週間の辛い“禁酒”の節制の洗礼を受け、晴れて無罪放免の身となった。

2012年——日本は、混迷・停滞の一年と言い切ってもよいであろう。東日本大震災の復興の遅れ、尖閣諸島・竹島の領有権争い、原発の再稼働問題、シャープやパナソニックの大幅赤字が示す経済の地盤沈下・・・列挙に暇がない。

しかしそんな2013年は、大きな変化と前進の年と捉えたい。昨年、アメリカ大統領として再選を果たしたオバマ氏はとにかく、フランス、中国、台湾、韓国でも指導層が大幅に入れ替わり、第三極の台頭やら変動絶えない日本も、師走選挙で予想通り自民党政権に変わった。そして、右傾化とかアベノミクスとか危惧されているが、日本国民はそれほどアホではなかろうと考えている。

◇この春は六巡りの干支巡り来む古希とう妻との二人三脚

これは私の賀状の年頭歌である。私の人生は〈林住期〉から〈遊行期〉への入り口にさしかかった。何の深みもない歌であるが、糟糠の妻と七十二歳の節目を一応元気に迎えられた私の心境を、素直に詠ったつもりである。それとともに、近親者に大きな不幸もなく年賀状をつつがなく言祝げる幸せを感じている。

「小田高11期通信」も区切りの10号で発展的解消をし、改めて出直すとの連絡を受けた。これまで何回か投稿してきた私にとっては大変寂しいことであるが、定年退職後始めたエッセイや短歌は、〈一服のお休み処〉として少しはお役に立ったのかとは考えているし、縁の薄かった小田高の仲間との交流が出来るようになったのは、「11期通信」とそれから派生した「4・6期通信」のお陰と思っている。これまでの今道さんのご苦勞を謝するとともに、更なる発展を期する「小田高11HP」に、今後共積極的に参加したいと考えている。

2012年12月 記

## 6組 石塚敬一

kei-isi@k00.itscom.net



11期通信は2008年4月に4・6組の「1146通信」としてスタートし、私も「箱根旧東海道を歩く」を寄稿しました。その後、学年全体の「11期通信」に発展し、寄稿される内容のレベルがあがって、近寄り難さを感じずるほどでした。創刊から5年近くが立ちましたが、「46HP」と統合して「11HP」へと更に発展することになりました。編集長はじめ関係者皆様のご努力の賜物と感謝申し上げます。

私自身はおかげ様で元気に過ごしていますが、暑さ・寒さの気候の変化などに身体がついてゆかなくなりつつあり、歩くスピードや長距離歩行も以前のようにゆかないのを感じています。体調管理と体力維持に努め、元気に過ごせるよう願っています。

## 6組 瀬戸章嗣

setoa@q06.itscom.net



### 「終わりは次の始まり」

小田高 11 期通信で、高校時代を思い返し、同期の近況や新知識に出会って、仲間意識を確認することが出来ました。ありがとうございました。

私は、会社経営手法を、利益とは離れた人生経営に当てはめて、一隅を照らす「日々是好日」のための「人生戦略」を書き、ほぼ 5 年間隔で見直しをしながら、その実現を目指していますが、自分の幸せは、①達成感、②人に喜ばれる幸せ、そして、③未来への希望、の 3 つが大きいと感じています。

歳を弁えて、無理せずゆっくり、目標に向かって歩いて行こうと思っているところです。朝夕散歩に連れて歩く愛犬<ゾラ>との 72 歳の写真です。

2012 年 12 月 23 日

## 4組 川崎虔右

HQQ07705@nifty.ne.jp



空母 赤城



制作風景

私は以前、小田高卒 11 期のホームページに寄稿した折に、小田原市シルバー人材センターの仕事しながらウォーキングや趣味の木工細工に励んでいると書きましたが、今年の 5 月に胃がんの宣告を受けました。

現在は、抗がん剤や点滴治療をしていますが幸いに効能大で、ほぼ今までの生活をしています。勿論、大好きな晩酌も欠かしたことはありません。その他 20 年来の付き合いがあります。それは、狭心症、高血圧、痛風です。お陰様で 3 ヶ月に 1 回の通院でもらう薬を飲んで全く異常はありません。外見上は全く正常？です。但し、毛髪は大分寂しくなってきましたが・・・

定年退職して 15 年目になります。退職後 2 年ほど関連会社に嘱託勤務した後、小田原市シルバー人材センターに会員登録をしました。現在は、センターの理事を務める傍ら、月に 5～6 日の施設管理の仕事をしています。また、センターでパソコン教室のインストラクターを週 1 回と個人レッスンをやっており、結構忙しい日々です。時間があると健康のためにウォーキングに励んでいます。小田原は山あり海あり川あり、更に小田原城址をはじめとする名所旧跡が沢山あって、楽しいウォーキングができます。但し今は残念ながらウォーキングをする体力がなくて家でパソコンと木工細工に励んでいます。

心身の「身」の方はウォーキングやゴルフ等でケアできますが、「心」の方はボケ防止も含め頭や手先を使って常に脳細胞を活性化する必要があります。

そのために私は、趣味として15年以上、木工細工に打ち込んでいます。

帆船のカティーク1号、2号にはじまって、能面、法隆寺の五重塔、金堂、薬師寺の東塔、ロッキングチェア、神輿、お地蔵さん等を作り上げ、現在は興福寺の五重塔作りに励んでいます。法隆寺の五重塔は高さが約110cmあり完成までに1年かかりました。

また、パソコンで水彩画を描いたりビデオ動画の編集も楽しんでいます。

生活をエンジョイし長生きするには、仲間作りやいろいろな付き合いも必要ですが、自分が打ち込めるものを持つことは何よりも大切なことと思います。

昭和39年に東芝の関連会社に入社した折に、仲間と作ったケチンボ旅行会（少ない予算で最大の効果を挙げるという意味）を結成しました。毎年夏休みに日本中の名所旧跡をドライブ旅行するという企画です。実行以来今年で連続46回を数えました。更に5年前から海外編も行っています。なんでも言い合える貴重な仲間です。また、城山中学3年2組の同窓会の有志12名（男女半々）で数ヶ月に1回いろいろなイベントを行っています。先生も参加しています。そのほか飲み仲間との付き合いも楽しんでいます。

平成25年4月で73歳。「胃がん」という大病を宣告されましたが、前向きな気持ちを持って一日一日を楽しく元気で精一過ごし、思い切り人生を謳歌する気持ちで頑張っている毎日です。

「年あらた 登り続ける 老いの坂」の心境です。

平成24年12月27日

#### 4組 岩田秀明

hid-ryu@ezweb.ne.jp



#### 水芭蕉との出会いに感謝！

20数年前、飛騨高山へ旅行した時のこと。合掌造りの庭先で、一株の水芭蕉の前に妻がしゃがみ込んでいる。その姿を見て、共通の趣味にしようと思った。

以来、北は八甲田山から西は白馬まで、隈なく水芭蕉を求めて出かけるようになった。雪解け後に、姿を現し見事に成長した水芭蕉の群生地は、誠に素晴らしい。

今では、春是水芭蕉とカタクリの花、夏はコマクサ等の高山植物、秋は紅葉と山野を駆け回る。そのため、宿は秘湯が多くなり、源泉かけ流しを楽しみ、山菜料理に舌鼓を打ち、多くの人との出会いで話が弾む。

このありがたい幸せ是水芭蕉に始まった。感謝で一杯である。

## 2組 下赤隆信

shimosan@xg8.so-net.ne.jp



卒業時 2組の下赤隆信です。 私は現在藤沢に住んでいて目と鼻の距離ですが小田原へ降り立つのは年に数回と言うところです。しかしあちこち歩いてみると、どなたも同じ感慨をお持ちだと思いますが、あのころのことは大変貴重なものに思えてきます。小田原の街は変わったようで変わっていない…それが歴史ある城下町宿場町の重みでしょうか。

私、おかげさまでまあまあ元気で暇な隠居をしております。暇つぶしは、園芸、旅行（らしきもの）や散策、ジャズ（ディキシー、聞くだけ）、それと折々の一杯というところです。

現役の後輩への賀状などにはこう添え書きをします。「元気でやっています。やってみると隠居もいいものです」

では、お会いする機会を楽しみにしております。

2013年新春

## 7組 斎藤良夫

mukha@nifty.com

### 「平成の獅子山」

大山阿夫利神社（神奈川県伊勢原市）に平成 25 年正月に建立された。生まれて間もない子獅子を谷に突き落として厳しく育てる、という中国の故事が獅子山のいわれだ。獅子はライオンではなく想像上の動物である。獅子を制作したのが友人とあって、建立の経過を見守ってきた。その事でテレビ神奈川の取材を受け、1月10日のニュース・ワイド番組で6分間にわたり紹介された----



私は二つの癌持ちで、胃の全摘手術から丸三年、前立腺の放射線施術を受けて一年半が経つ。手術に先立ち、読売新聞を退職後の大学の非常勤講師をはじめ、趣味の会を含む団体の責任のある役員・幹事等を全て退いた。

今は、頼まれれば小田原高校の社会人講師を務めるくらいで、あとは通院の合間に美術館めぐりや狛犬探訪を続けている。いわば、自宅と病院と寺社を往来するトライアングル生活である。飲食は、「これは絶対ダメ」と特に制限されているわけではないが、糖尿病もあり、10年以上前にやめたタバコに加えて酒も手術後、一滴も口にしていない。食事は、低タンパク、低カロリーの宅配弁当を昼と夕方に届けてもらっている。弁当にない刺身の生ものや野菜などは、町内の小料理店にほぼ毎日通い、＜熱燗＞（お茶・白湯）片手に、補給している。

大学でのシンポジウムや展覧会等には、それなりに顔を出してはいるが、飲食の伴う懇親会は遠慮している。そんな訳で、術後の旅行は沖縄への一回だけ。「つまらないでしょう ----」と、同情されている。事実、その通りだが、私自身としては、御馳走や酒に食指が向かないことを不思議に思っている。

サテ、獅子山だが、高さ約 3 m、大山と、祭神が親子の関係にある富士山の石を積み上げた。山頂には2頭の親獅子（大きさ 120 ~ 140cm・重さ 600 ~ 700kg）、中腹に2頭の子獅子が置かれている。親獅子は2頭一緒に神社境内までヘリコプターで空輸された。神社神域にはかつて狛犬や灯籠など様々な石造物があ

ったが、大正 12 年 9 月の関東大震災による山津波で流失した。それが再建されたのだ。いわば、震災からの復旧である。「東日本大震災はじめ全国の災害被災者・被災地の一日も早い復旧復興の願いを込めて、この平成の獅子山を見てほしい ----」。私はテレビで、こう訴えさせてもらった。

### 3 組 江木紀彦

noriegi@kk.ij4u.or.jp



虎やの前で

小田高第 11 期卒業生の同窓会通信として、今道さんがこの 5 年間かけて、本号までの 10 号発行されてきました。

さて、2013 年には同窓生の年齢は満 72 歳を過ぎ 73 歳になります。昨年厚生労働省は、国民が一生のうちで健康面の支障がなく日常生活を送れる期間（健康平均寿命）を初めて公表しました。神奈川県内の男性の健康平均寿命は 70.9 歳ということで、愛知県の 71.7 歳という最高齢に比べれば少し若いのですが、とにかく我々は健康寿命から病気の多発地帯に入ることになります。

それで、今後の発行は大変だろうということで、とりあえずは休刊するという決心をされました。

ということでこれが最後の投稿となります。

健康寿命にことよせて、自分の健康状態を考えてみますと、いわゆる加齢による不具合はしっかりと出ています。耳は遠くなり、眼科医からは老眼は仕方ないとして緑内障を心配され、高血圧と多少太り気味を素直に認めればメタボ症候群だろうと自己診断はしていますが、お医者さんの判決を受けることは避けていますから、自称健康体です。

老化判定にはゴルフのドライバーの飛距離がよく使われます。確かに若い頃の 300Y というのは遠い昔となりました。まぐれあたりで 260Y、大体が 220Y ですが、同世代と回ると、ちょっとしたい気分になります。先輩の話では、65 歳で飛距離は落ちる、いや 75 歳からだということですが、やはり何となく毎年少しずつ飛ばなくなっているというのが実感です。

今特に気を付けていることは、認知症防止として頭を使うということで、テレビドラマの「相棒」シリーズの再放送を見て、冒頭の 1 シーンだけで、どんな話か思い出すというゲームをやっています。1 回しか見たことがないとなかなか出てこないのですが、大体は 3 回くらい見えていますから、鮮明に思い出せますし、思い出してしまうと、もうその先は見ないことにはなります。

もう一つ、「ゴルフは易しすぎてつまらん。」とう方も居られるようですが、私のこだわりは「どうしてショットミスがなくすか」でした。やっと完璧ではないですが、原因究明は終わりました。そうしたら、今度は正しいスイングは何か課題となりました。スイングはきちんとできたと思っても、飛球方向がなぜ右？とか、飛距離が出ないなど、そのスイング自体が間違っている場合があります。レッスンプロやクラブ製作者の助言などから、今のところはいい線になりつつあります。球がヘッドに当たる瞬間の状態は物理的にあるべき姿は分かります。しかし、その瞬間に行きつくまでのスイングの流れとそれを作り出す関節や筋肉の動きはいろいろあって、正しいスイングをするのにミスしたのか、初めから間違っただけのスイングをしていたのかの見極めができませんでしたが、ショットミスが減ったことによって、正しいスイングをする道が開けてきたわけです。この成果を踏まえて、今年はコンスタントに 90 を切ることを目標にしようと思っています。

近況を知りたいという今道さんの要望ですが、やはりゴルフのスコアを何とか改善したいと考えている時間が大半ですから、この辺を近況ということでお茶を濁させていただきます。近況を知りたいという今道さんの要望ですが、やはりゴルフのスコアを何とか改善したいと考えている時間が大半ですから、この辺を近況ということでお茶を濁させていただきます。

## 6組 月村 博

tsukimurahiro@yahoo.co.jp



「つまるところ人生とは、一冊の本、一人の女性、一人の親友、一本の酒、一つの言葉（詩）を求める旅だったな」と述懐していた友がいたと保坂正康氏（昭和史研究家）の話が新聞に載っていた。“読書”われわれの世代に趣味を問えば、多くの人がこう答えるに違いない。

しかしながら、世間に溢れる万巻の書の中から、限られた時間内に、自分にとっての良書を選び出すのは容易なことではない。どうすれば効率よく良書を見つけることができるだろうか。

出版界でも指折りの本の虫として知られる井狩春男氏は「予め、本の本、つまり書評を集めた本に目を通し、ある程度の目星を付けておいて、その後書店に行き、お目当ての本を手に取りチェックすること」だという。

また、年配者向けのある雑誌が「今、もう一度読みたい一冊」を読者に挙げてもらったところ、何ともこだわりのある40冊が揃った。そのベスト3は、『坂の上の雲』『徳川家康』『宮本武蔵』と、いずれも時代小説である。

われわれの世代にとって本はかけがえのないものあるときは心の支えとなり、またあるときは人生の指針ともなる。誰しも忘れられない本の一つや二つは必ずある。折に触れて読みたい“我が人生”最高の一冊に会える年であれかしと念じている初春です。

## 3組 辻秀志

agoyv-m12008@ipone.ne.jp

### テニスとの長い付き合い

高校2年の夏休み前に誕生した“硬式テニス部”に参加したことが、72才のこの年までスポーツとして楽しむ付き合いとなることとなりました。高校時代は上々庭のテニスコートの草むしりばかり、大学へ入ってからもテニス部でスタートしたが鳴かず飛ばず、就職して川崎へ通勤するようになってからは隔週土曜日休みの時代が始まったことを幸いに小田高のテニスコートへ出かけた。現役の高校生の練習に入りこんでいたが、迷惑をかけるからと、よく来る13人でボール代を出し合う同好テニス会（八幡山ローンテニスクラブ、H L T C）を作った。その頃はまだ、硬式テニスは城山コートを使わせてもらえず、練習コートを探すのに苦労した。それでも、テニスをライフスポーツにしようと思い始め、テニス環境の改善にも皆と努力し始めた。そして、H L T Cは、早くも小田原テニス協会創設への発起団体となり、その後のテニス協会発展の中心として動き続けた。

現在の小田原テニス協会は、2市8町のジュニアからシルバーまで幅広いテニス活動の場を提供している。



今の私は、H L T Cの週2日の半日練習と、毎週木曜日午前中のシルバーテニス教室（私が還暦の年に仲間と始めた、テニスガーデンの8面のコートを使用、右下写真）で100人余の年寄（男60才以上、女子50才以上の初心者）とのテニスを楽しんでいます。

私のテニスの腕は、運動能力は並みながら、年季のお蔭で大勢の方々（11期の今道さん、太田充さん、佐々木洋さん、高橋辰男さん、根岸さん、を含む）とのテニスを楽しんでいます。同好の方は声を掛けていただき、一緒に楽しむ場を持たせていただければと思います。

#### 4組 米山 勉

CBD08728@nifty.com



「マンタがみたい」と第1回の11期通信に投稿した。その後の報告です。

与那国島で見た亀は急旋回で深みに逃げて行きました。セブ島の亀は珊瑚に囲まれて昼寝です。そばへ行ってもギョロリと目を開けるだけで逃げる様子は有りません。

楽しいダイビングでしたが、写真のごとく私の体重は90キロを超えてしまいダイビング器材をあわせると歩けません。

今年はなんとか頑張っって潜りに行きたい、マンタを見てやろうと思っています。

#### 6組 大倉富美雄

ok-design@kzd.biglobe.ne.jp



久しぶりのクラス会、非常に楽しませていただきました。是非、小田高出身の皆さんで小田原の再生を果たしましょう。

私もブログを書いています。建築設計、デザイン全般、文化芸術に渡ることがメインですが、一般の思いもよらぬ人から「読んでいますよ。面白い」、などと言われることがあり、止められなくなっています。お時間があったら立ち寄ってみてください。私の名前だけの検索でも出るようです。但し、当面、文章のみです。

<http://www.okura-fumio.jp>

#### 4組 植田研二

ueda-ks@ca.catv-yokohama.ne.jp



楽しい会を開催していただき、幹事さんほか企画にあたられた皆さん ありがとうございます。

帰りは箱根登山鉄道で強羅まで往復し、紅葉を楽しんでから帰りました。

#### 4組 釘持忠勝

iu8t-knmt@asahi-net.or.jp



幹事さん、御苦労様でした。  
久しぶりに皆様に出会うことが出来、楽しい一時でした。  
近況報告でも健康上の話題が多く、現状とうまく付き合いながら日々過ごしているんだなと感じました。  
これからも無理なく、前向きの生活をしたいものです。  
また、次回も皆様共々元気な姿で会いたいと思います。

#### 4組 山崎 泰

yasushiyamaz@ruby.plala.or.jp



今道、太田、月村、他各幹事の皆さん、今回の企画に大変満足させて頂き、感謝いたしております。

小田原の文化、文芸、歴史とそれらを取り巻く環境の素晴らしさを観せていただき、驚きと不勉強さを思い知らされました。

クラス会では、多分病氣と薬と健康談義に終始し、自分の健康さを自慢でもしようかなんて半分思いながら出席させてもらいましたが、とんでもなく、入野君の小田原駅前の閑散さに憂い、色々努力されている話や、太田君の専門の原発に対する我々の知りえない細かな問題を丁寧に解説してくれたり、大倉君の小田原の再生に対する熱い情熱の熱弁に感動したりと、大変勉強になりました。

二次会は私の下らない話に笑っていただいたり、一次会の話しの延長で大変盛り上がり、楽しかったです。帰りに、久しぶりに小田原駅では懐かしい小田原土産を買って帰りました。

次回も幹事さんは、大変ご苦労とは存知ますが、楽しみにしておりますので、よろしく。

#### 4組 太田 充

turuturu@os.rim.or.jp



5月のホームカミングデーに合わせた同期会開催から日も経ってないので、今回のクラス会の参加者が少なくなることを懸念しました。しかし、総勢十七名の方々にお会いすることができました。

当日、神保武司さんは、「咳が一週間ほど続いて参加できない」と、わざわざ集合場所に来てキャンセル料まで手渡していかれました。その律儀さに頭が下がります。幸いホテルではキャンセル料は不要とのことで、翌日には月村博さんが神保さんに返却いたしました。

クラス会では一部屋に集合しての二次会が楽しいものでした。吉田明夫さん、米山勉さんから差し入れていただいたアルコール類、つまみを飲食しながら、夜の十二時過ぎまで、論壇風発の態でした。

解散した後も、残ったアルコール類を部屋に持ち帰り、1時間近くも皆で懇親を深めたとか。今回、参加者の皆さんとの対話を通して感じたこと、「人生は本当に多様で、かつ変化に富んでいる」ことでした。次回にお会いするときの皆さんの澁刺さを是非見てみたいものです。

## 6組 入野卓彦



久しぶりに皆さんとお会い出来、楽しい一時を過ごすことが出来、是非またお会いしたいと考えております。  
昼間の部では、つたない案内をさせていただきありがとうございました。

## 4組 西川岳男

takeo243@yahoo.co.jp



11月28日のクラス会は昼間だけ参加して帰ってしまい失礼しました。  
でも私としては一夜城や白秋の記念館など初めてでしたので大変興味がありました。幹事さんありがとうございました。

## 6組 渋谷和夫



久しぶりのクラス会に参加し、楽しませてもらいました。  
皆さんの姿を拝見し、懐かしく思い、次回も是非参加したいと考えております。



### 病気に好かれた私

還暦を過ぎて4、5年はこれといった病にならなかったのですが、2007年に中咽頭癌になり、約2ヶ月余も放射線を目一杯かけられ何とか治癒しました。といっても5年後の生存率7割をクリアしたということですから、今後の3割はどうなるか分かりません。転移すればまず肺だということだそうです。

2007年6月中旬、咽頭の一部からドロドロとした血が吹き出て止まらず、夜間に小田原市内の全ての病院から診療拒否（いわゆるたらい回し）をされ、やっとある病院（最初は拒否された）で受け入れて貰い、止血の点滴を受けました。

翌日耳鼻科で診察を受けましたが、別に何ともないと診断されました。9月になるとその部分が少し腫れてきたので、掛かり付けの内科で診察を受けると風邪の一種かもしれないと云われ、塗り薬と飲み薬を出されましたが、数日しても治まらないので、次に耳鼻科に行きました。するとこれは癌かも知れないと云われ、市立病院を紹介されました。

検査の結果咽頭癌だということで東京の国立がんセンターを紹介されました。しかし、ベッドが無いということで連携している東京医療センターに再紹介されました。入院出来たのは11月末でした。これから2ヶ月余の治療が始まりました。

何故ここで経緯を長々と書いたかには、理由があります。先ず咽から不自然に出血した時点で癌を疑ってください。私の場合も9月の時点で判明していればその部分の切除で済んだのです。そうすれば放射線治療による唾液欠乏症と味覚障害にならずに済んだのです。咽頭癌は大きくなると切除が不可能になります。つまり生涯食べる楽しみを奪われてしまったわけです。

もし私と同様の現象がありましたら、なるべく早めに癌関係の病院でその部分の生体検査を受けてください。もし癌であっても切除で少し変声が生じる程度で旨いものを食べ続けることが出来ます。

更に昨年3月には脊柱管狭窄症の手術を受け腰椎に3対のチタンボルトを埋め込みました。そして今年1月には前立腺癌になり、これも摘出しました。

我々の年齢では、2～3ヶ月に1回血液検査をしましょう。PSAは必ず検査項目に入れてください。PSAが2～4になったら、生体検査を受け、癌の有無を確認しましょう。生検で癌の悪性度（グリーソンスコア）が低ければ（6以下）、小線源療法（ネットで検索してください）が適用出来ます。

皆さんお元気で長生きしてください。

♪前立腺 取ればなるほど 前立たず♪

## A V 三 味 の 日 々



**2012年2月タイ旅行  
映画「戦場にかける橋」のモデル  
となった橋で**

これは我が家のリビング・ルームに設置してあるAV機器です。真ん中のテレビ（SONY）は3D対応55型液晶ハイビジョンで、500GBのハードディスクとブルーレイ対応のDVDドライブを内蔵しています。

テレビ台の中は上からVHSテープレコーダー、8ミリテープレコーダー（共にSONY）。下はセンタースピーカー（YAMAHA）です。

テレビに向かって右に置いてあるのはサブ・ウーファー・スピーカー（YAMAHA）で壁にかかっているのはメイン・スピーカー（JBL）です。

画面にはありませんがテレビに向かって背後の壁にはリア・スピーカー（SONY）が2個かかっています。これら6個のスピーカーで5.1チャンネルのサラウンド放送を楽しむことができます。

これらに加えて左のオーディオラックの機器を使って地デジ8チャンネル、BSデジタル9チャンネルのほか有料放送のWOWOW、小田原ケーブルテレビで視聴できる各チャンネルの中から好みの番組を選んで楽しむ毎日です。とは言っても隣と一緒に淹茶を飲みながら相手をしてくれる女性がいてくれれば、こんな生活とおさらばしてもいいかな・・・これから相手を探すか・・・無理だろうな・・・

K-POPや韓流ドラマの美女タレントのような人は。

7組の山本哲照です。私は不甲斐ないこととうとう伴侶を得ることが叶いませんでした。自分がこの世に生きたことを証明してくれる子孫を残せなかったことは、人生における最大の痛恨事です。現在（2013年2月5日）72歳で、あと残された時間はせいぜいもって10年くらいでしょうか？

独身だったせいで結婚された諸兄よりもかなり自由な生活を送ってられました。特に母親を見送った2000年5月以降は全く気ままに生きてきました。

会社勤めをしていた頃は趣味嗜好もかなり多様で、思いつくままに挙げてみても登山・読書・映画・音楽・麻雀・卓球・ジョギングなどいろいろ楽しんでいました。しかし、齢70を超えた現在そうそうあれもこれもとやるわけにもいかず、もっぱらAVに絞っています。AVといっても諸兄のお好きなアダルト・ビデオではありませんよ。Audio VisualのAVです。次の写真をご覧ください。



**我が家のリビングルーム AV 機器**



### 尽きせぬ夢

ドリームとレイン・インターネットというプロバイダを起業したのは1995年のことだった。3人で始めた会社が、みるみるうちに成長し、2000年には売り上げ57億円に達し上場をすることになった。

上場を目前にして社長を辞任し、米国SRIのスピノフ企業であるレッドサイレンの日本支社社長に転じた。その後紆余曲折を経て2006年に引退するまで、企業買収の嵐にもまれ、めまぐるしい経験をした。

いま、毎日が平穏で健康な日々を送れていることを、深く感謝している。しかし、一方では且つての刺激あふれる生活を懐かしむ気持ちがあり、今の暮らしが物足りなく感じることもある。元気な退職者を募って、事業を興そうなどというのは無茶な夢だろうかと思折考える。プラント作りあるいは起業、と何かを作り出すことに喜びを感じていたのだが、体力と寿命を考えるともう無理はできないと自省している。

### 編集後記

長らく皆様におつきあい頂き、有難うございました。5年の間に様々の方の経験や知識・意見を開陳して頂き、参考にしたり、あるいは元気づけられたりしました。そして、どれだけ多くの方に読んで頂けたのか分かりませんが、時折送って下さる感想を糧にして編集を続けてきました。

また、この間クラス幹事の方々からは様々なご支援を頂き、原稿募集にご協力頂いたことに厚く御礼申し上げます。紙に印刷して郵送すれば、より多くの方に届けられるのですが、資金がないため電子版のみにしたことが残念です。パソコンを使わない方々には大変申し訳ないことをしたと思っています。

私が常任幹事を務めてから、小田高卒業45周年／50周年と同期会を開催しましたが、年齢70を過ぎると中々同期会を開催するのは大変だから、同期の絆を維持するのに手軽な方法がないだろうかと思折考した結果、「小田高11期通信」を始めたのですが、パソコンやインターネットから離れる方が増え、11期生全体の「会報」という目的にはそぐわなくなったと感じ、第10号で終巻にさせて頂くことにしました。

その代わりとして、再々ご案内していますが同期のウェブサイトを立て上げ、小田高同窓会のサイトからもリンクしていますので、こちらをご利用ください。

最後にあらためて今までのご愛読を感謝するとともに、何時の日かまた皆様にお会いできることを期待して筆を置きます。

編集者代表 今道周雄